

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 40-1

通号 第 102 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

「浦和博物館へようこそ」

浦和博物館へようこそいらっしゃいました。

皆さんは、この博物館の外観を見て、どう感じましたか。

浦和博物館の建物は、明治11年(1878)今から133年ほど前に現在の埼玉会館の場所に建てられた埼玉県師範学校の校舎の中央部分の外観を復元したもので、昭和47年、今から40年前に建てられました。

師範学校の校舎ができた明治11年には、明治天皇が東海北陸に行幸途中の最初の日に、当師範学校に宿泊しました。この時、当時の太政大臣であった三条実美(さねとみ)から「鳳翔閣」という名前を付けてもらい、その額が館内にあります。

師範学校の建物の形が、鳳凰という、中国でめでたいときに出現するといわれている孔雀のように大きな羽をもった伝説の鳥が翼を広げて飛び立つ形に似ているので、鳳翔閣と名づけられたそうです。また、この建物は、県で最初に建てられた洋風建築で、入り口や窓の形などが変わったつくりです。特に玄関の上の二階バルコニーの8本の柱が洋風建築の特徴であり、アカンサスという植物の葉の彫刻が施されています。このアカンサスは、ヨーロッパ南部原産で高さ1メートル程に育ち、6月から7月にかけて白い花が咲きます。博物館の庭にありますので、ご覧いただければと思います。

また、サッカーの浦和レッズのエンブレムには、師範学校の建物がデザインされています。その由来は、明治41年に師範学校の教師として赴任した細木志郎教諭がサッカーを学内に導入し、情熱的に学生たちを指導し、その指導を受けた学生たちが県内にサッカーを広めて行ったことから、師範学校は、浦和の、そして埼玉のサッカーのシンボルとして位置づけられるようになったからです。

浦和博物館の館内には、市指定史跡の馬場小室山遺跡から発掘された縄文時代の人面画付土器、土偶装飾土器をはじめ見沼の歴史や通船堀に関するものなど地域に関連した資料を数多く常設展示しています。また、このほかに一年を通して、特別展、収蔵品展、夏季企画展、冬季企画展など楽しく、魅力ある企画で皆様をお迎えしたいと考えておりますので、又是非お越し下さい。

本日はご来館ありがとうございました。



浦和博物館外観

■ 目 次 ■

「浦和博物館へようこそ」	1
特別展「日光御成道」を開催しました	2
学芸員による展示解説	4



特別展「日光御成道」を開催しました

浦和博物館では、平成23年（2011）10月4日（火）から12月11日（日）まで、特別展「日光御成道」を開催しました。

江戸幕府を開いた徳川家康は、没後、日光東照宮に祀られました。「日光御成道」は、歴代の将軍が日光東照宮へ社参に赴く際、岩槻城を宿泊地としたため、江戸から岩槻を経て日光道中に合流する経路として利用された街道です。岩槻は近隣の産物が集まる商業の中心地であり、江戸と岩槻とを結ぶこの街道は、さいたま市東部地域の経済や文化交流の動脈にもなっていました。この「日光御成道」と、市内の宿場である大門宿、岩槻宿、街道に隣接する「野田のさぎ山」など、周辺地域の歴史や文化について紹介しました。

また、11月23日（水）には、浦和コミュニティセンター（浦和駅東口駅前）にて、法政大学教授の根崎光男先生を講師として、関連講座「日光御成道周辺地域の暮らし」を開催しました。（この内容については次号に掲載します）

展示の概要

●日光御成道とは

「日光御成道」の道筋、成立過程などについて、地図、年表、絵巻物（複製資料）などの資料によって紹介しました。現在「日光御成道」と呼ばれている道筋は、江戸の本郷追分で中山道と分かれ、岩淵宿、川口宿、鳩ヶ谷宿、大門宿、岩槻宿を通り、幸手宿の手前で日光道中に合流する経路です。岩槻を通ることから、江戸時代初期には「日光道中岩槻通り」「岩槻道」などと呼ばれていたようです。

●将軍の日光社参

日光への将軍の社参の様式について、その様子を描いた刷り物や行程表、周辺の村々に出された御触書などの資料によって紹介しました。

社参の目的は、家康の命日に合わせて行われる例祭に参詣することです。例祭は毎年行われましたが、将軍が参詣するのは、年忌の節目や、後には幕府の威光を示す意図のあるときであり、平年は将軍の名代が代参していました。

二代将軍秀忠、三代将軍家光はひんぱんに社参を行いましたが、幕府の財政悪化もあって、四代将軍家綱の頃からは社参の回数が少なくなりました。回数が減った分、社参の特別性は高まり、実施にあたっては幕府の威光を示すため、周到な準備のもと大々的に行われました。周辺の宿場や村々には、道の修理や掃除、沿道の家や畑の整備、藪の刈り取り、荷物の輸送や宿の準備など多くの仕事が命じられ、大変な負担となりました。



日光社参の供奉行列（部分）天保14年（1843）

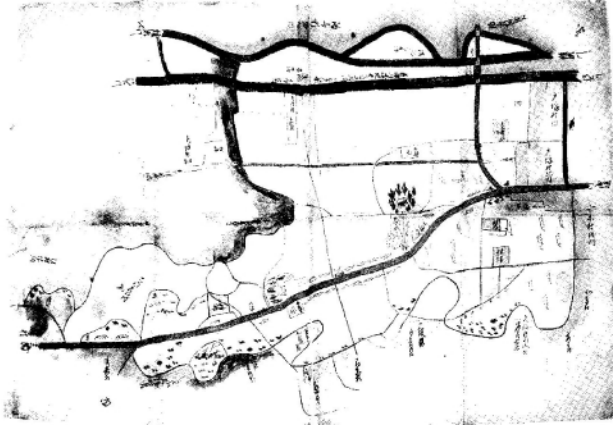
幸手市指定文化財「金子家文書」

原資料：個人蔵 写真提供：幸手市教育委員会



●宿場町大門・野田のさぎ山・城下町岩槻

日光御成道の道筋のうち、市内の区間について、沿道の宿場や将軍ゆかりの地などを、絵図や沿道の写真、地図などの資料によって紹介しました。



大門宿鹿絵図

さいたま市指定文化財「会田家文書」(個人蔵)
埼玉県立文書館寄託(会田家文書No.1921)

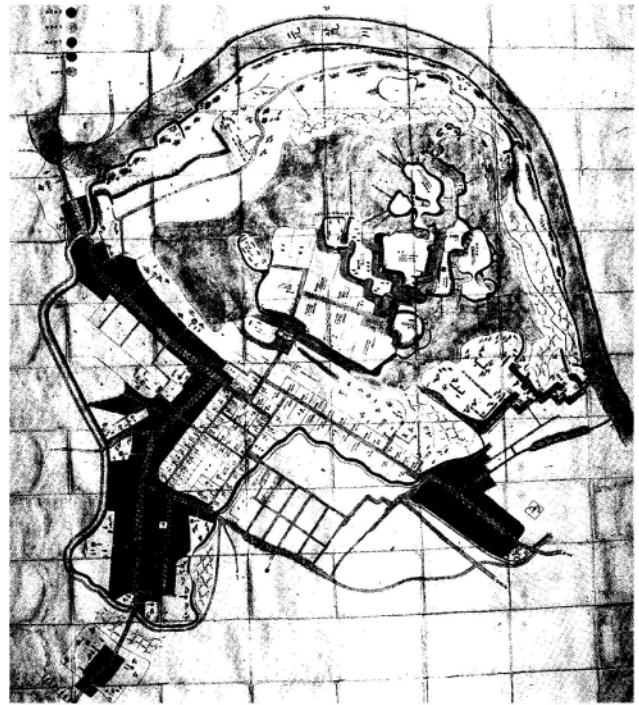
大門宿は、日光御成道の江戸から三番目の宿場です。中世には市が開かれていたという記録があり、戦国時代の末には宿場としての機能も担っていたようです。正式に日光御成道の宿場となった時期ははっきりしませんが、隣の鳩ヶ谷宿・岩槻宿までの公定運賃の記録が残っている寛文6年(1666)までには、公式な宿場となっていたようです。



さぎやまの記并歌 安政2年(1855)
さいたま市指定文化財「会田家文書」
個人蔵 浦和博物館寄託

「野田のさぎ山」は、日光御成道に沿った、当時の寺山村(現緑区大字寺山)や代山村(同大字代山)、上野田村(同大字上野田)付近にあった、サギ類の集団営巣地です。当時、さいたま市域の大半は紀伊徳川家の「御鷹場」になっており、鷹狩りの獲物となる野鳥の保護が命じられていたため、長期にわたり営巣が続きました。将軍の日光

社参に際しても、サギの保護のために日光御成道に迂回路を設け、さらに社参当日は将軍がさぎ山を「御上覧」し、「御称美」するなど、営巣地の保護が行われていました。



岩槻城并侍屋敷城下町迂惣絵図

江戸時代後期
岩槻郷土資料館蔵

岩槻(岩付とも書く)は、中世には武蔵国と下総国の国境地帯にあり、東北地方へ通じる街道が元荒川と綾瀬川(当時は荒川本流)を渡る要衝の地でした。岩槻城は、15世紀末頃、岩槻が古河公方と扇谷上杉氏の対立の最前線となったところに築かれました。

江戸時代には岩槻藩が置かれ、江戸の北方の守りとして、代々譜代大名が藩主を務めました。将軍の宿泊には、本丸にあった平屋建の御殿が建てられていましたが、享保13年(1728)の八代将軍吉宗の社参の前に火災で焼失したため、その後は二の丸に新築された御殿が使われました。

城下町では、毎月1と6の付く日に市が立ち、周辺の農産物、日用雑貨などが売買されました。中でも、岩槻木綿は特産物として有名でした。近隣の農村でつくられた木綿は岩槻に集められ、日光御成道などの陸路や、綾瀬川・元荒川の舟運で江戸などへと出荷されました。

●近代の日光御成道

明治時代以降の御成道や宿場、野田のさぎ山な



ど周辺地域の移り変わりについても、絵葉書や鉄道路線図、写真などの資料によって簡単に紹介しました。他の主要街道が明治時代以降国道として整備されたのに比べ、日光御成道は重要視されませんでした。それによって現在でも江戸時代からの道筋が比較的良く残っているようです。

特別展「日光御成道」は、延べ58日間の期間中、2600名を超える方々にご見学を頂きました。関連講座、展示解説などにも多くの皆様のご参加を頂きました。ありがとうございました。

学芸員による展示解説

浦和博物館特別展「日光御成道」会期中の11月12日(土)・12月3日(土)、午前と午後の2回、学芸員による展示解説を行いました。

日光御成道が作られた歴史的背景、利用された経過などをわかりやすく展示資料等に沿って解説しました。来館者の方々が学芸員の解説を聞きながらの見学で、思わぬことに気がついたり、疑問に感じたことを質問されるなど、学芸員とコミュニケーションを通して博物館に、より親近感を持っていただくよい機会となりました。

今回は、2日間の実施で24名の方々に解説しましたが、今後、より多くの方々に参加いただけるよう広報活動の充実に努めてまいります。

日誌抄

- 4 / 17(日) 定例探鳥会
- 5 / 15(日) 定例探鳥会
- 5 / 19(木) 三室小学校(6年生)地域学習
- 6 / 9(木) 三室小学校(2年生)地域学習
- 6 / 11(土) 親子探鳥会(雨天のため館内で実施)
- 6 / 19(月) 定例探鳥会
- 7 / 1(金) 三室小学校(3年生)地域学習
- 7 / 5(火)~10(日) 燻蒸消毒
- 7 / 16(土)~8 / 31(水) 夏季企画展「夏休み子ども博物館」
- 7 / 17(日)~8 / 2(火) 博物館学芸員実習
- 7 / 17(日) 定例探鳥会
- 7 / 28(木)~31(日) 昔のあそび体験(おもちゃ作り、クイズ大会)
- 8 / 2(火)~31(水) 文化財さがし
- 8 / 6(土)~7(日) 見沼通船堀のしくみ実験
- 8 / 21(日) 定例探鳥会(雨天のため中止)
- 8 / 27(土)~28(日) かんたんおもちゃづくり(紙とんぼ、割りばし鉄砲)
- 9 / 6(火)~9 / 25(日) 収蔵品展

- 9 / 9(金) 蓄音機演奏実演
- 9 / 18(日) 定例探鳥会
- 9 / 19(月) 蓄音機演奏実演
- 10 / 4(火)~12 / 11(日) 特別展「日光御成道」
- 10 / 14(金) 東浦和図書館連携講座
- 10 / 16(日) 定例探鳥会
- 11 / 12(土) 学芸員による展示解説
- 11 / 20(日) 定例探鳥会
- 11 / 23(水) 特別展関連講座「日光御成道周辺地域のくらし」
- 12 / 3(土) 学芸員による展示解説
- 12 / 18(日) 定例探鳥会
- 12 / 20(火)~4 / 15(日) 「ちょっと昔のくらしの道具展」

さいたま市立浦和博物館報 **あかんさす** No.102
編集・発行 さいたま市立浦和博物館
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地
TEL・FAX 048-874-3960
発行日 平成24年1月31日
ホームページ
<http://www.city.saitama.jp/hakubutsukan.html>
E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

この館報は2000部作成し、1部当たりの印刷経費は25円です。

